

明治安田生命 2013年度入社式 社長挨拶（要旨）

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 松尾 憲治）は、188人（総合職^{注1}117人、特定総合職^{注2}43人、アソシエイト職^{注3}28人）の新入職員を迎え、入社式を行ないました。

以下のとおり、社長挨拶の要旨をお知らせします。

1. 生命保険業界を取り巻く環境について

- 国内の生命保険マーケットは、少子高齢化によって大きく変容し、死亡保障のニーズが相対的に減少する一方、医療・介護といった第三分野の商品や、個人年金保険をはじめとした貯蓄性商品の需要が拡大している。また、販売チャネルにおいても、銀行などでの窓口販売、インターネットによる通信販売、来店型店舗の出現など、多様化が進んでいる。
- 企業が持続的に発展するためには、伝え続けるべき価値観を維持しつつ、必要な改革を絶え間なく繰り返す努力が不可欠。変化に対して変わる勇気と変えるパワーが企業の持続的な発展の決め手となることを覚えておいていただきたい。

2. お客さま満足度向上の徹底追求に向けて

- 企業はお客さまの信頼なくして存在し得ない、私たちが支えてくださるのはお客さまである。真のお客さまを大切にすることを実現するため、お客さま満足度向上をすべての部署の活動の基本に据え、最優先で取り組んでいる。入社にあたり、当社の取組みの根本が「お客さまを大切にする」「お客さま満足度向上を徹底的に追求する」であることをしっかりと認識してほしい。
- 2013年度は、2011年4月から取り組んでいる3ヵ年計画「明治安田新発展プログラム」の最終年度であり、2014年1月には明治安田生命発足10周年の節目を迎える。本プログラムでは、介護保障を死亡、年金、医療保障に次ぐ「第4の柱」として取り組んでいる。また、国内の生命保険市場が縮小傾向にあるなか、中長期的な成長力確保と事業ポートフォリオ多様化の観点から、海外保険事業を積極的に展開している。
- 全役職員が互いの長所を活かし「お客さまのために」という目標に向け力をあわせている。みなさんも大いなる理想を抱き、めざすべき方向を確認し、一丸となって目標に向かっていただきたい。

3. みなさんに期待すること

【仕事に対する強い使命感を持つ】

生命保険は、相互扶助の精神のもと国民の社会保障の一端を担うとともに、お客さまからお預かりした保険料を資産運用するという重要な社会インフラとしての役割もある。東日本大震災における対応では、職員一人ひとりの仕事の積み重ねが、会社全体としての大きな責任、社会的使命を果たすことにつながった。どうか、生命保険事業に携わる者としての強い使命感を持ってもらいたい。

【自律したプロ人材をめざす】

与えられた仕事に必死に取り組みさまざまな経験を積むこと、自分自身の仕事に対する逃げない姿勢と行動が大切。自律したプロとしての自覚と専門性を有し、幅広い視野に基づいてクオリティの高い成果を継続的にあげ、自らのキャリアアップを図ることのできる人材になってもらいたい。

【知識の習得に励む】

業務の高度化・専門化が進むなか、お客さま満足度の向上をさらに追求していくためには、職員一人ひとりが専門性を高める必要がある。プロとしての専門性を身につけるため、積極的・自発的に新たな知識を得る努力をしてもらいたい。

【グローバルな視点を持つ】

今後もアジアや中東欧等を中心に海外保険事業を展開していくうえで、グローバル人材が不可欠。グローバル人材とは、単に外国語ができる人ではなく、民族や文化、社会保障制度が異なる各国のローカルマーケットのなかで、生命保険業のプロとして活躍できる人である。生命保険業の各分野のプロとなり、さらにツールとしての外国語を身に付け、世界各国で活躍できる真のグローバル人材になってもらいたい。

注1. 総合職では、2012年度から「総合職 career S」「総合職 career V」という育成カリキュラムが異なるコース別採用を実施。「総合職 career S」は基幹チャネルを支える営業所長への早期選抜登用をめざし、「総合職 career V」は能力・適性に応じて幅広い分野でキャリアアップをめざすコース。

注2. 特定総合職は、生命保険ビジネスの中核業務（個人営業・法人営業）を中心に幅広い職務を担当し、定められた勤務地域でキャリアを形成する職種。転居を伴う異動はない。

注3. アソシエイト職は、生命保険ビジネスにかかわるお客さまサービスならびに事務対応全般に従事。転居を伴う異動はない。

以 上